

大阪市西成区にある重症心身障害者の小規模作業所「デーセンター夢飛行」で、昨年から韓国の若者が働いている。青少年が就労ビザなしで働きながら外国を旅行できる「ワーキングホリデー」制度が1999年から日本と韓国との間で始まり、それを利用して日本に来ているのだ。

陳任徹さん(28)もその1人。夢飛行の募集を見て、「いい経験になる」と思い、すぐ電話を入れた。高校から日本語を学び、ペラペラだ。障害者のおしめを替えたり入浴のサポートなど、韓国ではやったことのない仕事ながら、日本人スタッフとも和気あいあい、「楽しい」と話す。

## ● 夢飛行 ●

### 心の交流

2001. 2. 16  
Me

なぜ日本か。彼らに聞くと、「日本でのキャリアが就職に役立つ」「音楽や文化への興味」など、動機はさまざま。もちろん日韓の過去の歴史も知っているが、「ほとんど屈託はなさそうだった。障害者施設での仕事を通じて、陳さんは「日本人と単に言葉だけでなく、感情的なつながりができたような気がする」と話す。

夢飛行は人手不足に悩み、ワーキングホリデーの若者の労働力に頼ったのだが、同時に海外を知る機会のない障害者と彼らの触れ合いにも期待していた。それから約1年。両者は幸福な出会いを遂げ、ささやかな心の国際交流が育ち始めた。

【増田 耕一】